ちろん、その実用性は、今日のこの種の諸雑誌に見られるように、通俗的・即効的なものではなく、明らかに、高度であり、学問的でもあるが、「子育て」という現実の営みを中心に置くという点で、それは、飽くまでも「実用の書」であった。

ところで、この「実用の書」が、ある時期から、意図的に、しかもかなり大がかりに、非実用的な側面をかかえこみ始めた。文芸記事・絵画論などに代表される芸術性の投入がそれである。新しく編集責任者となった倉橋惣三が、その推進者であったことは言うまでもない。「婦人と子ども」に連載された文芸記事の数々、それらは、マーク・トウェイン、オルコット、ポーターなどの作品紹介であったり、或いはそれらを手がかりにした人間像・子ども像の探究であったりするが、今日、盛んに行なわれているこの種の作品研究の先駆として、注目されてしかるべきであろう。さらに、倉橋惣三のユニークな絵画論は、改めて云々するまでもなく、新鮮な魅力に満ちている。

彼は、幼児教育の科学的研究に期待しつつ、同時に、いま一つの側面、すなわち、幼児に対する芸術的接近を強調した。「子育て」とは、真理の探究であると共に、美の追求でなければならないのだ。

「女学雑誌」という高踏的な教養誌の中で、いつか読者の関心が文芸欄に集中し、「婦人と子ども」という高度な実用書の中で、いつか大幅な重みが文芸欄にかけられる。前者の場合は、その実用性のゆえに、そして、後者は、その非実用性のゆえに。ここに、文学や芸術の両義性が顔をのぞかせている。と同時に、女性文化の一つのありようをも、うかがい知ることが出来る。すなわち、それは、抽象的な思想性から遠く、常に実用を志向しつつも、美との関連を不可欠とする姿なのである。

幼児の教育　第七十八巻第二号

二月号　©　定価二五〇円

昭和五十四年一月二十五日　印刷
昭和五十四年二月一日　発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼発行人　津守　真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一
印刷所　図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所　株式会社　フレーベル館
振替口座東京九―一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら，おとりかえいたします。